

低コスト造林の実践にむけて

～造林・保育のトータルコストの削減をめざして～

上川北部森林管理署

【現状】

今後人工林の主伐が増加することから、市町村等を中心に、造林及び保育量の増加に対応した林業従事者の育成や作業の省力化・低コスト化についての検討が進められている。

【課題・目的】

造林、保育の省力化・低コスト化が課題であり、伐採から保育までのトータルコストの削減を目的とする。

【これまでの取組・成果】

○小型林業機械の活用によるトータルコストの削減

小規模分散した事業地での活用が期待される小型フォワーダ及び下刈作業の軽労化に向けた乗車式草刈機に係る現地検討会を開催。

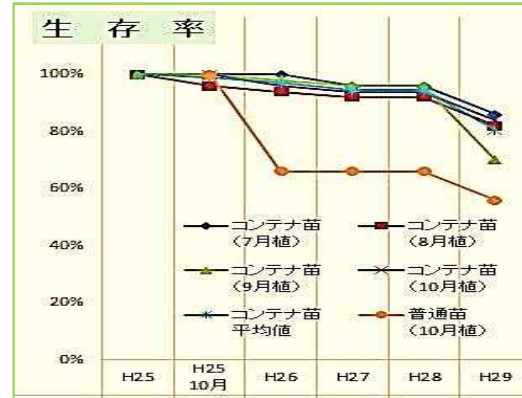
今後の実用化に向け、伐根や起伏に対応した走行性をどのようにしたら確保できるかなどの改良点を確認。



【平成29年度の取組結果・成果】

①コンテナ苗の調査・検証（継続）

平成25年度から植付作業の省力化や下刈回数の削減などの造林・保育コストの低減に向けて、コンテナ苗と裸苗を植栽した箇所と比較対照プロットを設定し、苗高及び根元径、生存率の調査を5年間行い、その結果を検証した。裸苗と比較した結果、コンテナ苗の生存率が高いことが確認された。



②天然更新の調査・検証（新規）

平成29年度から造林コスト（植付経費）の低減に向けて、天然更新も有効な手法の一つであることから、日陰となりやすい林縁部と他の箇所で比較対照プロットを設定し、トドマツ天然稚幼樹発生状況等の調査を継続中。



③ササの回復状況の調査・検証（新規）

平成29年度から下刈回数の削減などの保育コストの低減に向けて、ササの根茎を除去しやすいグラップルレーキを使用した機械地拵箇所とグラップルを使用した機械地拵箇所と比較対照プロットを設定し、ササの回復状況等の調査を継続中。



【今後の取組で目指すところ】

①調査及び比較検証を継続し、造林・保育の低コスト化に繋がる有益な技術情報の発信

②国有林のフィールド等を活用した現地検討会での技術の普及・啓発により民有林行政の参考となるように取組む。



【今後の目標】

国有林のフィールドを活用した、造林・保育のトータルコスト削減に向けた技術の検証や、有益な技術情報の収集と情報発信などにより、地域への普及・定着を目指す。